

災害時

# 緊急放送 自動でスイッチ

## 倉敷市 424施設にラジオ無料貸与

緊急放送を確実に伝えることのできる災害被害拡大を防ぐため、倉敷市は、市内の障害者や高齢者、幼児らの施設計424か所に、緊急時に自動でスイッチが入って避難勧告や被災情報を伝える「緊急告知FMラジオ」の無料貸与を始めた。使用方法を説明しながら順次手渡し、6月中旬に配り終える。自主防災組織への配布も検討している。他府県では、

中越地震などで被害を受けた新潟県長岡市も近く導入予定という。市は、2004年に3つの台風で2人が死亡、4人がけがをしたうえ、避難勧告が十分伝わらなかった地区もあって、被害がさらにふくらむ危険性があったことを反省。緊急情報を確実に伝えることが、被害を減らす第一歩と判断し、高齢者や障害者、幼児、妊婦など要救助者がいる各施設に貸し出すことにした。同ラジオは、エフエムくらしきと倉敷ケーブルテレビが昨秋共同開発。災害などの緊急時、同FM局が特殊信号入りの電波を発信し、強制的に電源が入り、緊急情報が大量で流れる。同時に付属ライトが点灯するため、聴覚障害者への告知にも有効で、電波が届かない地域でもCATV局のケーブルをつなげば受信できる。充電式バッテリーを内蔵、ふだんはFMラジオとして使える。

保育関係者らに災害に備えたラジオの使い方を説明する倉敷市職員



市はまず、倉敷公立保育園園長会の佐々木和子会長(59)らに手渡しして使い方を説明。佐々木会長は「万一の場合、子どもたちをいち早く安全な場所に避難させるため、大切に使います」と礼を述べた。

## 災害時に役立てて 市、緊急FMラジオ貸与 福祉施設や保育園に

060525-4階

貸し出された緊急告知FMラジオ



台風や地震といった緊急時に自動的に電源が入って情報を伝える「緊急告知FMラジオ」が二十

四日、倉敷市から市内の高齢者や障害者の福祉施設、保育園、幼稚園などに貸し出された。市役所であった貸与式には、施設の代表者六人が出席。伊東香織収入役が「一昨年の教訓を生かし、緊急時に活用してほしい」と、一人一人にラジオを手渡した。倉敷公立保育園長の佐々木和子会長は「自動で災害情報などが得られるのは心強い」と謝辞を述べた。市は今後、新しく結成される自主防災組織へのラジオ配布も検討している。

FMくらしき、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビで購入できる。(則武由)